

第58回 青雲塾 報告

青雲塾担当 松井繁幸 (第23期)

<http://www.seiunkai.net/kouryu/seiunjuku/list.html>

1. 日時 11月26日(日) 午後1時30分～4時30分 (5時までには撤収完了)
2. 場所 大阪大学中之島センター 607
3. 会費 2,500円 (・レクチャー 1,000円 資料代その他経費を含む。)
(・茶話会 1,500円)
4. 講師 高橋慶吉先生 TAKAHASHI Keikichi (大阪大学大学院 法科学研究科 准教授)
5. 演題 『第二次世界大戦と日米の歴史認識—広島・真珠湾・靖国』

6. 講師のプロフィール

2000年3月 大阪大学法学部卒業 (青雲会48期)

2002年3月 大阪大学法学研究科博士前期課程修了

2005年5月 ペンシルヴァニア大学歴史学部大学院修士課程修了。その後、助手、助教を経て、
2010年4月から現職

(研究内容・専門分野) アメリカ外交史

(最近の主な著書)

・『21世紀の東アジアと歴史問題—思索と対話のための政治史論』田中仁編, 法律文化社, 2017年04月

7. 講師からひと言

日中、日韓の間で歴史認識の問題が深刻化していますが、日米の間にも極めて大きな歴史認識の相違が存在します。昨年は5月にオバマ大統領の広島訪問があり、12月に安倍首相の真珠湾訪問が行われるなど、日米間の歴史認識の問題を考えるに当たって非常に重要な年でありました。今回の青雲塾では、そうした昨年の展開を踏まえつつ、まずは上記の著書に寄稿しました論文、「原爆投下と日米の歴史認識」の内容を簡単にご紹介したいと思います。そのあと、真珠湾や靖国の問題にも触れながら、歴史認識の観点から戦後日米関係を振り返ってみたいと思います。

8. 参加者から

加堂裕規さん(23期)のface bookより

「今回は、法学部・大学院ともに「政治学系研究室」の後輩である、高橋慶吉准教授(アメリカ外交史専攻)が『第二次世界大戦と日米の歴史認識—広島・真珠湾・靖国』と題して語ってくれました。「認識の違いの結着(トゲ)よりも“和解の力”」「無理に歴史認識の一致をはからない合理的思考が戦後の日米関係を規定」というまとめは、鋭く素晴らしいものでした。高橋先生も述べられていたように、これは日中、日韓関係を考えるべきkeyWordともなるでしょう。また、核兵器の使用についても「アメリカの世論は変わってはいない」との指摘も重要なものです。

参加者から、同じく政治系のさらに後輩である、同席した日露関係史が専門の、醍醐龍馬助教への質問もあって、安倍首相の発言の滲ますもの等、タイムリーな話題が交わされて、参加者は少なかつたけれど大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。」

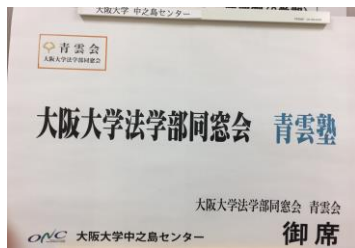
9. 青雲塾担当から

落語、文学からガラリと変わり、今回は政治学の世界へ。時宜にかなったテーマであり、私自身関心を寄せる問題を含んでいて思わず聴き込んでしまいました。

茶話会では、ご参加の先輩方から、樺太（サハリン）に生まれ11年住んで戦後内地に引き揚げてきた体験、駐留米兵の意外な優しさに接した驚きなど、今となっては貴重なお話を伺うことが出来ました。

今回は高橋先生のレクチャーにご参加の皆さんからのお話も含めて肉付けされ、戦中から戦後にかけての様々な課題を立体的に考えるいい機会になりました。

高橋先生、ご参加の皆さんのご協力に心から感謝します。



①中之島センター案内板



②③高橋先生のお話にも熱心に聞き入る



④⑤茶話会でくつろいで色々な体験談が披露される